

平成26年1月  
青森市企画財政部  
競輪事業所

# 1

## 今後の売上高見通し【本場開催+場外開催】

### 平成26年度以降の売上試算の考え方

本場開催：平成25年度売上額(見込)×伸び率(5ヵ年平均)+変動要因を加味

・平成26年度からの開催枠組み変更(全国調整)

FIIレース：▲6日(基本：58日→52日)

FIレース：日程の調整方法を変更(開催の偏った競合等が発生→開催可能枠の中で調整する方法)

この変更に伴い青森競輪(坂本勉カップFI)に係る場外車券売場の減少を見込む(▲約7.8億円程度を見込む)

・ミッドナイト競輪の拡大推進(現在 基本 10日開催→20日以上開催)

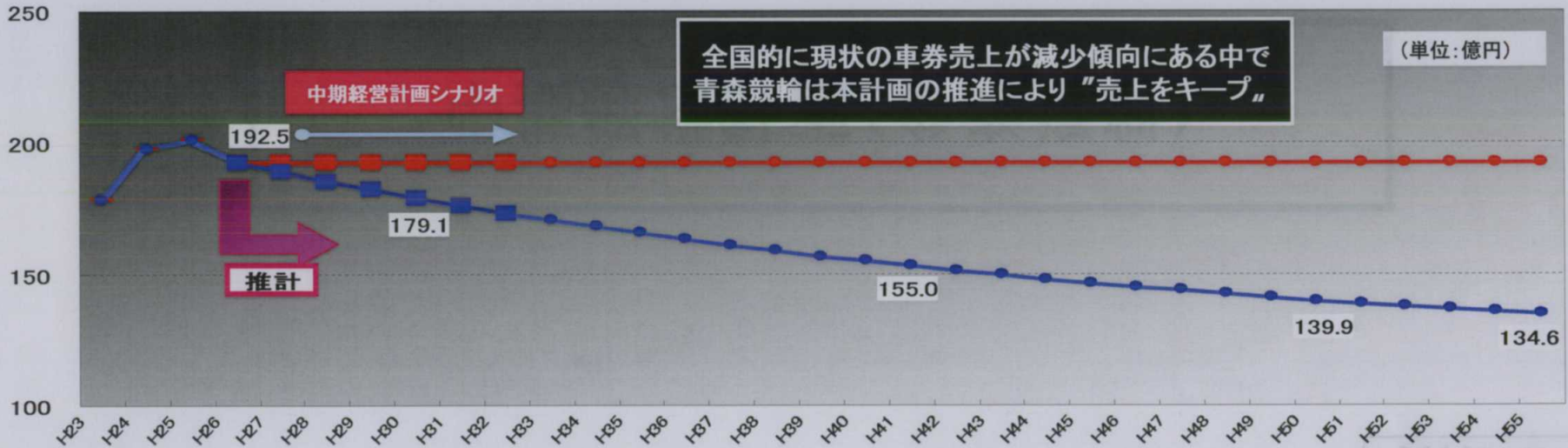
場外開催：平成25年度売上額(見込)×伸び率(5ヵ年平均)

### 平成26年度以降の売上を2つのケースで試算

◆売上予測A...H27以降売上下げ止まる 『本場開催 下げ止まり+変動要因』+『場外開催 下げ止まり』

経産省「産業構造審議会・競輪事業のあり方小委員会-第5回資料」試算。競輪活性化効果による。

◆売上予測B...減少が続くケース 『本場開催▲0.2%推移+変動要因』+『場外開催▲5.3%推移』



### 中期経営計画シナリオパターン 売上予測A

**H26年度以降売上キープ** 全国的に現状の車券売上が減少傾向にある中で青森競輪は本計画の推進により“売上をキープ”

#### 前提条件(試算)

#### 【(仮)本場施設耐震化】+【一般会計への繰り入れを行う】+【バンク改修】

##### ①本場施設の耐震性について

- 1)本場施設の耐震診断は、平成26年度に実施予定
- 2)耐震診断の状況により時点修正を行うが、この試算のもとでは、以下の内容で仮計上し試算。
  - ・耐震診断の判定は“耐震性なし”
  - ・耐震工事費用は、他施行者の事例を参考に**7.7億円**を見込む(調査した範囲での**平均値**)
  - ・耐震工事は冬期間に実施することとし、本場施設冬期間閉鎖に伴い、場外車券売上減少分▲7.45億円を加味。

##### ②一般会計への繰入金は、年額1億円を繰り入れる。

##### ③平成36年度にバンク全部改修2億円を見込む。(前回H16年度実施)

##### ④地方財政法に基づく公営競技納付金の軽減措置(H27年度までの期限)は延長を想定。

##### ⑤平成26～32年度の包括委託に係る最低収益保証は**2億5千万円/年**(本場・場外開催売上が180億を超えると上乗せ保証)

### 悲観的シナリオパターン 売上予測B

**減少が続くケース** 「本場開催▲0.2%推移」+「場外開催▲5.3%推移」

#### 前提条件(試算)

#### 【(仮)本場施設耐震化】+【一般会計への繰り入れを行う】+【バンク改修】

##### ①耐震工事費用は、他施行者の事例を参考に**11.25億円**を見込む(調査した範囲での**最大値**)

##### ②～④は、上記内容と同様

##### ⑤平成33年度以降の収益保証については、仮に現行条件を内容とする包括委託契約を継続するとして、上乗せ保証分岐点売上高180億円に対する最低収益保証額(2億5千万円)の占める割合(1.38%)をもとに試算 **車券売上×1.38%=収益保証額**

## パターン別・基金残高の見通し(H26~H55年度:30年間)

一般会計への繰入金 年額1億円を  
2パターンで基金残高を試算

### A 中期経営計画シナリオパターン

売上シナリオ H26以降売上キープ

### B 悲観的シナリオパターン

売上シナリオ 減少が続く

### 競輪事業の主な将来再投資

- ・本場施設建替
- ・藤崎場外建替
- ・新場外投資

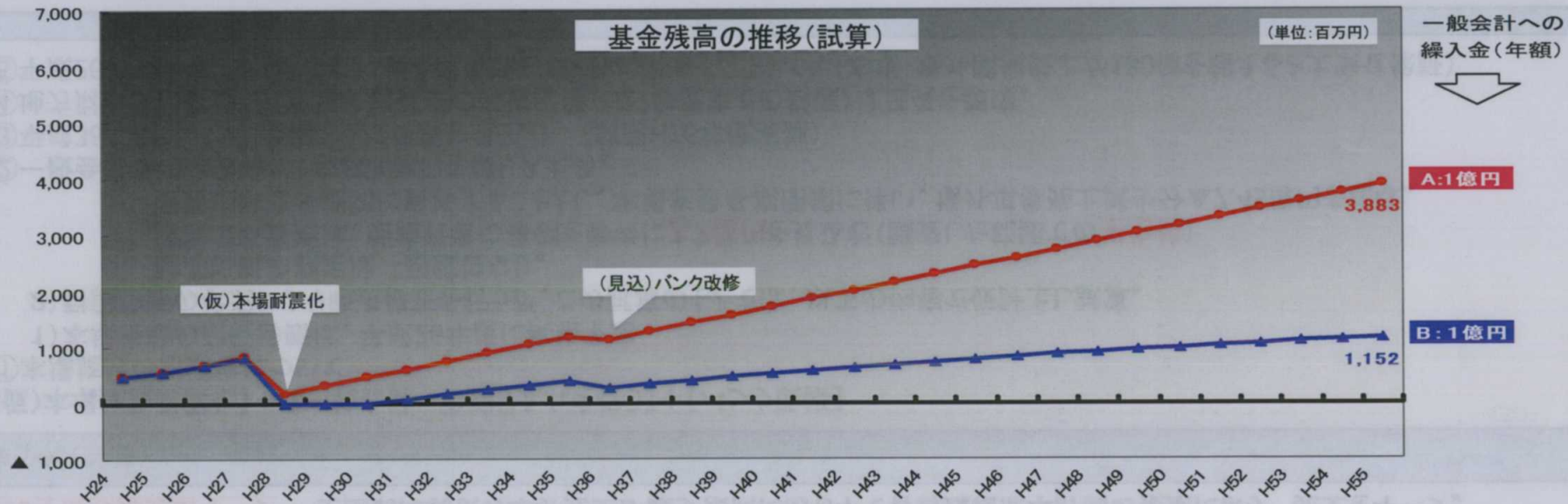
※上記項目はグラフには反映していない。

#### 【参考】再投資費用

・立川競輪場 (概算)約40億円  
施設コンパクト化(スタンド改修など)は、青森本場の将来的な施設の考え方に類似)

・藤崎場外 開設時建設費用 5億円程度

・新場外投資 14.5億円程度(用地費除く。)  
青森競輪あり方検討会報告書(平成23年11月)



将来再投資

投資的経費 - 自己資金 = 地方債借入